



GOOD NEWS とぎのこえ

War Cry

8月号

福音版
2023
August
No.2856

二〇二三年 八月一日発行

明治二十八年創刊

福音版・毎月一日発行 広報版・奇数月十五日発行

子どもを祝福される

イエス様

石川 芳子

救世軍では七月中旬から八月いっぱい、「こども伝道週間」としており、それぞれの小隊（教会にあたる）や連隊（地区）で子どもたちのための行事が計画されます。子どもたちがイエス様と出会うことにより健



やかな成長をすることができると、と、夏期聖書学校、子ども会、キャンプなどがおこなわれます。なぜ、子どもたちのための行事がおこなわれるのでしょうか。それはイエス様が、子どもたちを大切にしてくださいからです。

イエス様はお弟子さんたちと共に、あちこちの村や町に行つては、多くの人々の病を癒し、神様のことを伝えておられました。イエス様の周りには、いつでも多くの人々が、そのお話を聞きたくて、または病を癒していただきたくて、集まってきました。

ある時、そのような場所に子どもたちを連れて、イエス様に触れていただきたいと思う人たちがやって来たのです。

子どもたちを連れてくるので、そこにやって来るのも時間がかかったのかもしれない。その場所はずでに人々でいっぱいだったのかもしれない。それで、弟子たちは子どもを連れて人々がイエス様に近づこうとするのを止めたのです。へイエス様は多くの人々を癒し、病を癒し、お疲れだろう。これ以上イエス様のお手を煩わせては申し訳な

い」と思って子連れの人たちの行く手を制したのかもかもしれません。

けれどその時、イエス様は弟子たちに言われました。「子供たちをわたしのところに来させなさい。妨げてはならない。神の国はこのような者たちのものである。はっきり言っておく。子供のように入れば、決してそこに入ることはできない。」（マルコによる福音書10章14、15節）

そして、子どもたちを集めてくださり、抱き上げ、手を置いて祝福してくださいました。

親は、子どもの健やかな成長を願う、そのために必要なことはしようと思ふのです。けれども、子どもの健やかな心の成長また霊的成長を願って子どもを教会に連れて行くかと思われ方は、どれだけいるでしょう。イエス様は「子供たちをわたしのところに来させなさい。妨げてはならない」と言われました。ぜひ多くの方たちが子どもさんやお孫さん連れて、教会や小隊に集っていただきたく願います。

はこのような者たちのものである。……子供のように神の国を受け入れる人であれば、決してそこに入ることはできない」と言われました。

「子供のように」とは、どういうことでしょうか。ある救世軍士官（伝道者）の文に、「幼い子どもにも身勝手な面があり、素直である反面頑固だったり、人間の醜い面を備えている。けれど、乳飲み子という言葉があり、幼子は飲み込む、受け入れるという特色がある」とありました。子どもの素直さは、やはり大切な性質だと思います。イエス様のお言葉もその意味でしょう。まず信じて受け入れる、子どものような者が神の国に入ることができるのだ、と教えておられるのです。

夏のこの時期、子どもたちがイエス様の祝福をいただいて、心も体も霊も健やかに成長していつてもらいたいと願うものです。そして、自分自身も素直にイエス様を受け入れる信仰をもつ者であり、もち続ける者でありたいと願っています。

これを読んでくださっているあなたも、素直な気持ちでイエス様のもとに行ってみませんか。

（救世軍士官（伝道者））



救世軍仙台小隊(教会にあたる)でのライブ

暗闇に光を —希望を歌い続ける

ナイト de ライト ボーカル
平野 翔一さん

北海道・札幌を拠点に幅広い活動を展開する、「希望を歌うロックバンド」、ナイト de ライト。ボーカルを担当する平野さんに、イエス・キリストに出会った経験をお聞きしました。

最初のバンド

ナイト de ライトのリーダーのヒロ(長沢絃宣)と僕は小学校の同級生で、中学校に入った時に一緒にバンドを組みました。ヒロは牧師の息子で、家が教会で、教会にはドラムセットやアンブもあったので、そこで練習しよう。僕にとって初めて教会という場所に入った経験でした。そこから始

まって、二十歳ぐらいまで彼と一緒に音楽活動をしていました。そのバンドで本気で音楽やって、メジャーデビュー目指すぞって頑張っていたんですが、二十一歳の頃に、解散することになってしまいました。その原因は僕でした。

僕は高校を二年で中退し始めて、十六歳で飲食店で働きはすごくかわいがってくれて、僕も先輩たちと働いて、大好きになつていきました。仕事に比重が移り、僕はほかのメンバーと同じ熱量で音楽ができなくなっていました。ライブの日に出られないとかひどく迷惑をかけることが重なって、メンバーからもうこんなじゃできねえよ、と。それで解散することになったんです。

たお店をやめて、知り合いのついででススキノにあるバーで働き始めたんです。もっと飲食やサービス業、接客業を学びたい、と思っていました。若くて好奇心旺盛だったし、新しい世界を見たかったんです。

夜の町で

それでススキノで働き始めたんですが、フタを開けてみると、その店は、お客さん同士でサイコロ振って賭け事とか、ビリヤードやダーツで大金を賭けたりとか、賭博バーみたいな場所だったんです。目の前で暴力や賭け事が毎日のようにあり、僕もお客さんからの酒を毎日のように飲まされて、週に何回かは血を吐くほどでした。休みもずっとなく、そこで人生が狂ってしまった感じでした。何の希望ももてなくなり、目の前に広がる光景が当たり前になつていって、どんどん無気力になつていくというか人として、心が腐っていくような自分がわかって、そういう世界に流されて生きてたんです。

七日の朝でした。過労と、昼夜逆転の生活で睡眠不足もひどくて、仕事を終えて帰る道で、居眠り運転で大きな事故を起こしてしまつたんです。ドーンという衝撃で目が覚めました。大変な事をしてしまった、と思いつつ、はっと気付いたら、車はぐしゃぐしゃなのに僕自身は全くの無傷だったんです。事故対応に来た警察官にも「この事故でかすり傷ひとつないなんて奇跡だよ」と言われました。でもその時、僕は、命があつて生きていたことを、全然喜ばなかった。むしろ、なんでこの事故でひと思いに自分を殺してくれなかつたんだろう、と強く思いました。それほど、人生がどうでもいいと思うような絶望の中にいたのです。

意味を知りたい

「ゴスペルバンドって何？」と思いつつ、彼らが書いた曲を歌う中で、歌詞にある「君」とか「あなた」とか「愛」、「光」って何なんだろうと思えました。歌うためには、この言葉の意味を知りたいと思つて、教会に行き始めました。というのも、うちのメンバーは僕以外の三人が牧師の息子なんです。彼らはこのバンドでイエス様のことを伝える音楽をやるうって決めて、バンドを始めて最初の一年間で誰も神様を信じるこ

ナイト de ライト プロフィール

2006年北海道札幌市で結成された、4人組ロックバンド。ヴォーカル：平野翔一、ギター：三橋恵之矩、ベース：長沢紘宣、ドラム：田中満矢。2012年1月「終わらない夢」がコンサドーレ札幌公式テーマソングに採用され、石屋製菓のテレビCMに起用される。2013年1月「虹」が大丸札幌店店内BGMとして採用される。2014年8月には「Stain」が阪神タイガースマツト・マートン選手の登場曲に採用される。2015年1月スガシカオ「hitori tour」札幌公演のオープニングアクトを務める。2015年、国際飢餓対策機構親善大使に就任。2016年5月イスラエル独立記念式典にて演奏。2017年から3年連続 Zepp 単独ライブを大成功させる。2020年、12カ月連続シングルCDリリース達成。FM ノースウェーブ『ナイト de ライト トリビंग』毎週日曜 21時から放送中。

オフィシャルサイト <https://www.night-de-light.com/>



YouTubeは
こちらから▶



と決めていたんです。で、実は、その一年の中で最初にイエス様を信じて救われたのが僕でした。本当に神様ってすごいと思います。

でも教会に行き始めた最初は、もちろん全然わからなくて、「イエス・キリストが十字架にかかって死なれた。そして三日目よみがえって……」と聞いて、「え、よみがえった?!」みたいな(笑)。「いやいや、よみがえる、はないだろう」と半信半疑で聞いて、いま

いち、自分には関係ないという感じがしていました。でも、自分がそれまでススキノで出合ってきた悪(あく)とは相反して、教会に行くとなんかにみんなが優しいんです。むしろ、優しくしてくれすぎて居づらいというか、自分みたいに汚れた人間(あき)がいていい場所じゃない、という気がしていました。それでも、教会の皆さんとの関わりの中で、荒んだ心のリハビリというか、少しずつ人間らしさを取り戻していく時間を過ごしました。

すべてが新しくなった

イエス・キリストのことを信じ切れないまま教会に通っていて、教会の人が貸してくれていた聖書をたまにパラパラ開いては、よくわかんねえな、と。でもある時、部屋でベッドに寝転びながら聖書を開いてた時、ある言葉がズドン!と胸に突き刺さってきました。

「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見

よ、すべてが新しくなりました。」(コリント人への手紙 第二5章17節 新改訳聖書)

「だれでも」、「キリストのうちにあるなら」——荒んだ生活をしてた自分、こんな自分がここにいていいのかと思ってる自分に、そんなお前でも、キリストと共に歩むなら、古いものは過ぎ去って、新しく生まれ変わる事ができる。そのメッセージが心に刺さってきたんです。教会で聞いてたイエス・キリストが十字架にかかって死んで、よみがえって、今も生きておられる。そして十字架にかかってくださったのは僕のためなんだ、って、それまでは

全くピンときてなかった。でもこの時、ああ、イエス・キリストの話は、おとぎ話じゃない。この十字架の愛は僕にも向かっている、僕のためにしてくれたことなんだってというのが、心でわかって、ストンと落ちてきたんです。それが僕がイエス様を信じた時でした。

暗闇に光を届ける歌

神様との出会い方はまた違います。僕は本当にどん底から、イエス様の光の中を歩んでいけるように人生を百八十度変えてもらったので、これを歌うのはむしろ自分しかいない、という自覚に変えられました。

今振り返ると、神様がすぐくゆったり、大切に、僕を育ててくださったんだなと思っっています。自分はイエス・キリストを信じて、伝えていくんだっていう思いを与えてくださった、そしてずっとイエス様と共に歩んでいくことを選び続けられたのは、本当に、神様が配慮してくださった道があつて、それに沿って自分は歩いてきただけだと思っっています。本当に感謝です。

僕がイエス様を信じてから、ナイト de ライトであちこちの教会を回ってライブを始めると、感謝なこととその働きはどんどん広がっていきました。でも、バンドの成長スピードが速すぎて、自分がセンターで歌うことに葛藤(かたご)も覚えました。まだ信仰の浅い自分が、教会で歌うなんてふさわしくないのではと思った時期が最初の数年はありました。

いま、バンドは結成十七年になりました。コロナ禍の時を経て、今年は毎月のようにライブをしています。また、「北海道いのちの電話」との協力で、小、中、高、大学に何って歌っています。それから、「アンダー18フリーパス」と銘打って、今年ナイト de ライトのライブは十八歳以下は入場無料と決めています。毎日楽し



2022年夏、北海道の児童養護施設で

くないな、コロナで全然おもしろいことできなかった、つまんねーな、とか、生きてる意味ないなって思っている若い人もいろいろいたら、ライブに来てほしいって願っています。まずは無料ということで(笑)、ライブに来てもらって、ナイト de ライトの楽曲が、歌が、その歌詞、思いが、若者に届けばいいなと思っっています。

ソロでも活動しています。自分でしか届けられない人たちに、イエス・キリストを紹介していく、自分のやれるスタイルで、音楽歌を使って希望を届けていこうという思いは、最初から変わりません。これからは変わらずやっていこうと思っっています。

創立者 ウイリアム・ブース 大將 ブライアン・ペドル (万国本営 英国ロンドン) 日本司令官 スティーブ・モーリス (救世軍本営 東京都千代田区)



世界をみつめて

〈フランス〉生活困窮者への支援

フランスの救世軍では、様々な形で生活困窮者への支援をおこなっています。マルセイユ1区ではキッチンカーで地域を巡回し、緊急宿泊施設に入居している家族など、自炊設備がない不安定な状況で生活している人々に対応しています。設備が整ったキッチン^{は無料}で使用でき、食材はフードバンクから無償で提供されています。このトラックは週に3回、25の家族を受け入れています。利用する家族は、落ち着いて一緒に料理ができるのは一週間にこの時間だけ



マルセイユ キッチンカーのようす

ということもあります。パリでは、朝に街を回って街頭生活の人々への朝食配布をおこなっており、2022年には40,157食の朝食を提供しました。

また、「ラ・ショルバ協会」との協力のもと、パリ市の支援を受けて、様々な文化施設で「アート&フード・プロジェクト」をおこなっています。これは街頭生活の人々へバランスのとれた朝食と文化活動とを毎朝提供するという取り



パリ 街頭での朝食配布



パリ「アート&フードプロジェクト」で

組みです。「体と心に栄養を与える」というミッションのもと、困難な生活を強いられている人々が、安全な場所での朝食と、ダンスや美術のワークショップや展覧会などの文化的なプログラムを楽しむことができます。また、希望者には、社会復帰のための専門的支援の紹介をしています。この働きは2021年1月から始まり、冬のプログラムとして3年間おこなわれましたが、2023年4月から、通年開催することが決定されました。

◆最高会議が第22代救世軍大將を選出

救世軍は、第21代救世軍万国総督ブライアン・ペドル大將が2023年8月2日付で引退するのに伴い、第22代大將を選出する最高会議を5月に英国ロンドンでおこないました。世界の各軍国(管区)のリーダー^{のつと}が集まり、1980年救世軍法(イギリスの議会法)で規定された手順に則り、投票により選出された議長によって会議が進められました。大將候補者の指名を受けた4人の士官とその配偶者が、最高会議質問委員会によって用意された質問への回答とスピーチをおこないました。それを受けて、5月27日(土)に選挙がおこなわれ、投票により、リンドン・バッキンガム中將(現・参謀総長)が第22代の救世軍万国総督・大將に選出されました。



リンドン・バッキンガム中將は2023年8月3日に大將に就任し、妻のブロンウィン・バッキンガム中將と共に、世界133の国で活動する救世軍を指揮する任務を始めます。

〈プロフィール〉

リンドン及びブロンウィン・バッキンガム中將夫妻はニュージーランド出身。1990年1月にニュージーランド・フィジー及びトンガ軍国で救世軍士官(伝道者)に任官される。1994年、海外奉仕としてカナダ及びバミューダ軍国のウィンザー小隊士官(牧師にあたる)に任命される。1998年7月にニュージーランドに帰国しウエリントン・シティ小隊士官や連隊(地区)リーダー、本営(本部)での働きを歴任。2013年6月、シンガポール・マレーシア及びミャンマー軍国の司令官と軍国女性部会長に任命される。2018年1月1日付で英国及びアイルランド軍国の司令官と軍国指導者育成部長。同年8月3日付で参謀総長と万国女性部書記(のち、万国霊的生活成長部書記)にそれぞれ任命され、現在に至る。



救世軍とは？ 心は神に 手は人に

救世軍は、英国ロンドンに国際本部を置き、世界133の国で活動するプロテスタントのキリスト教会です。1865年、英国のメソジスト教会の牧師ウイリアム・ブースと妻カサリンによって始められ、東ロンドンのスラム街で、家のない人々、アルコールの悪影響下にある人々、搾取される女性や子どもたちに助けの手を伸べつつ、神様の愛を伝えてきました。

日本では1895(明治28)年に英国から士官(伝道者)たちが来日して、救世軍の働きが始まりました。日本人最初の救世軍士官となったのは山室軍平で、平易な言葉で聖書のメッセージを伝えるとともに、廃娼運動や結核療養所の設立をし、日本の医療、社会福祉分野での先駆者の一人にも数えられています。ブースや山室の精神は現代にも受け継がれ、各地の救世軍で、キリストの愛と救いを伝え、困難の中にある人々に寄り添い、奉仕する働きが続けられています。

救世軍公報 ときのごえ
発行日 福音版/毎月1日、広報版/奇数月15日
定 価 福音版/1部40円、広報版/1部100円
(税込) クリスマス特集号(12月1日号)/1部100円
振 替 00180-5-4400
発行兼 救世軍
印刷人 代表者 スティーブ・モーリス
編集人 山谷 真
発行所 救世軍本営 <https://www.salvationarmy.or.jp>
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17
電話 03-3237-0881(代表)
Mail jpn.editorial@jpn.salvationarmy.org
印刷所 ピーアンドエス



聖書は新共同訳を使用しています ©共同訳聖書実行委員会 ©日本聖書協会 救世軍は、旧統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、下記救世軍にご相談ください。

【取り扱い支部】

救世軍への連絡をご希望の方は、以下の項目及び住所氏名をご記入の上、救世軍本営(左記)、もしくは、上記救世軍にご連絡ください。
・私の近くの救世軍を紹介してください。 ・キリスト教についてもっと知りたいです。
・『ときのごえ』の購読を申し込みます。 ・相談を希望します。